



Company Profile

会社案内



OGK KABUTO Co., Ltd.

Philosophy

私たちの理念 — 品質と心質 —

Quality of Heart

時代とともに変化するスタイル。
さまざまなニーズに応えるため
わたしたちはあらゆる「声」に耳を傾け、
ヘルメットに欠かせない「安全」という
基本性能の進化をつねに心がけています。
温かい「心」と思いやりの「心」を持ち、「ものづくりへのこだわり」を胸に。
子どもから大人まで、あらゆる人々が安心・安全な暮らしをしていただくために。
そして、やさしさあふれる未来のために。

VISION
SAFETY MEETS
STYLE
“かぶるヘルメット”
から
“着るヘルメット”へ

MISSION
SAFETY MEETS
SMILE
すべての人に
“安全と安心”を
提供するメーカー

VALUE
SAFETY MEETS
SPIRITS
すべてのお客様に
こだわる
カブトスピリッツ

代表あいさつ

常に最高の製品をめざすこと。
そして“プロが納得できる製品づくり”を追求しつづけること。
そこには絶えず「何か違う」という高い問題意識と、「もっと良いものができる」という向上心があります。
そんな飽くなきチャレンジ精神が、結果として100種類以上のヘルメットを開発する原動力となっていました。
私たちKabutoは“The Quality of Heart(心の質)”をマインド・スローガンに掲げ、
これからも「安全」と「安心」を提供するメーカーとして、お客さまとともに走りつづけてまいります。



Mission

Kabuto製品が
提供できるまで

02

プランニング

市場ニーズに応える商品の企画案を作成。すべての人に安全・安心はもちろん、かぶる楽しさや快適性、今までにないアイデアで創造しています。

01

市場調査

子育てママとの座談会や、レーシングサービス等でニーズをヒアリング。市場を熟知することでユーザーが欲しいと思う商品開発へ活用しています。

▶詳細はP10へ

03

デザイン

基本思想をもとに、企画を反映させた設計でさまざまなデザインを施しています。使う人の心が躍る、機能性とスタイルの両軸で検討します。

▶詳細はP9へ



04

設計

Kabutoだからこそ提供できる「こだわり」を設計に活かしています。手仕事による造形技術とデジタル、職人技と最先端技術を融合しています。

05

製造・出荷

製品の基本設計完了後は、安全基準試験を繰り返し行います。多くの厳しい試験をクリアした最終仕様の製品を、工場で量産。完成した商品の検品を行い、出荷しています。

▶詳細はP8~9へ

ユーザーの声に応え、
すべての人のいのちを守るセーフティーギアを提供する

市場にはたくさんの声があふれています。

「何よりも大切なわが子を守りたい」「安全快適にツーリングを楽しみたい」

「自分の好きなスタイルを表現したい」

すべての人に安心と安全を提供しながら、できるだけ多くの声に応えたい。

そんな想いで商品開発に向き合っています。

07

ユーザーへ

フィールドでは様々なシーンでKabuto製品が活躍しています。Kabutoは安心して使える安全ギアの提供、笑顔を守るかぶる楽しさを、これからも追求してゆきます。

06

販売

製品は全国のオートバイショップ、二輪用品、自転車専門店やWEBで販売されます。製品の機能性や取り扱い方法を詳しく伝えるため店員の方々へ定期的に研修会も行っています。



Challenge

Kabutoの歩み

今でも、これからも、Kabutoの挑戦は続く

オージーケーカブトは1982年に設立し、40年以上ヘルメットを作り続けてきました。常識にとらわれず、つねに一步先の挑戦を。それがKabutoの原点であり、今なお持ち続けている信念です。



▲1986年当時のヘルメット着用義務ポスター

1982

オージーケー販売
株式会社設立



1986

オートバイヘルメットの着用義務化に伴いヘルメットメーカーとして歩みを始める

法令化を前に原付バイク用のヘルメットのラインナップを拡充、販売数を大きく伸ばしヘルメットメーカーとして市場に挑戦する大きな一步。自転車部品用品も多様な製品を販売し、自社製一輪車の開発もスタートしました。

▲1986年当時のヘルメット着用義務ポスター

1992

小学校の体育授業に一輪車が正式採用

かねてより販売、教育関連へも啓発活動していた一輪車が、小学校教育指導要領3・4年体育授業の選択科目に採用。TVCも制作し年間売り上げ10億円を達成。



1990

多様化するニーズに応えKabuto発のプロダクトを創造

初の自社設計フルフェイスを開発・販売。「負圧ベンチレーション」の開発など空気の流れにも着目。自転車業界では、競技におけるヘルメット着用が義務化。製品にJCF(日本自転車競技連盟)認定を国内初取得しました。

1998

Kabuto独自のアイデアによる「世界初」機能と製法で製品化

オートバイ用に世界初の空力バーツ「エアロフィン」を採用したヘルメットを発売。サイクル用でも世界的に主流となっている「インモールド成型」方法を発案し製品化しました。



2007

レースを通じて研究を重ね画期的プロダクトを開発

プロライダーの声をもとに空力デバイス「ウェイクスタビライザー(PAT.)」を開発。自転車用ヘルメット事業では超軽量「モストロ」を発売し、国内スポーツヘルメットの市場を席巻しました。

1992

小学校の体育授業に一輪車が正式採用

かねてより販売、教育関連へも啓発活動していた一輪車が、小学校教育指導要領3・4年体育授業の選択科目に採用。TVCも制作し年間売り上げ10億円を達成。

1990

多様化するニーズに応えKabuto発のプロダクトを創造

初の自社設計フルフェイスを開発・販売。「負圧ベンチレーション」の開発など空気の流れにも着目。自転車業界では、競技におけるヘルメット着用が義務化。製品にJCF(日本自転車競技連盟)認定を国内初取得しました。



2015

自治体への協力通学用ヘルメットの一斉供給

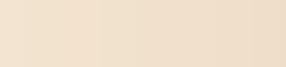
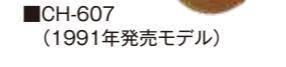
学生の自転車通学時の事故多発を背景に、愛媛県からの要請を受け様々な準備を協働。県立高校生に対して通学用ヘルメットを一斉供給しました。

2008

チャイルドヘルメット国内シェアトップに

子供用サイクルヘルメットが一般的でない頃より製造販売を行っていましたが、2008年の道交法で子供のヘルメット着用努力義務が施行され「チャイルドヘルメットシリーズ」が一気に販売数を伸ばしました。

※自転車用ヘルメット
国内販売個数(SG基準品・自社調べ)



2020

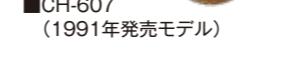
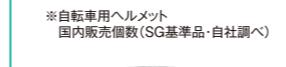
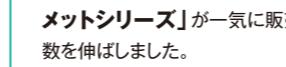
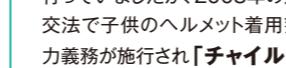
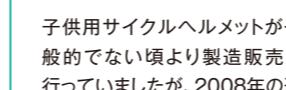
小さなベビーのための最小サイズを開発

国内頭部計測データから必要性を提唱。国内SG基準の最小サイズ規格のヘルメット製作を進め、45cmからのファーストヘルメット「PICOT」を製品化。最小サイズの必要性、着用啓発活動とともに市場に展開。

2016

Kabuto初の金メダルを獲得

リオデジャネイロ五輪自転車トラック競技において「エアロ-SL」を使用したカルム・スキナー選手(イギリス)がKabutoとして初となる金メダルを獲得しました。



KIDS DESIGN AWARD 2020

キッズデザイン賞2020年度

審査委員長特別賞受賞

2020

小さなベビーのための最小サイズを開発

国内頭部計測データから必要性を提唱。国内SG基準の最小サイズ規格のヘルメット製作を進め、45cmからのファーストヘルメット「PICOT」を製品化。最小サイズの必要性、着用啓発活動とともに市場に展開。

2020

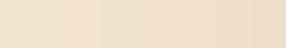
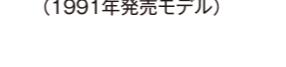
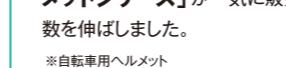
小さなベビーのための最小サイズを開発

国内頭部計測データから必要性を提唱。国内SG基準の最小サイズ規格のヘルメット製作を進め、45cmからのファーストヘルメット「PICOT」を製品化。最小サイズの必要性、着用啓発活動とともに市場に展開。

2016

Kabuto初の金メダルを獲得

リオデジャネイロ五輪自転車トラック競技において「エアロ-SL」を使用したカルム・スキナー選手(イギリス)がKabutoとして初となる金メダルを獲得しました。



Commitment Kabutoのこだわり



衝撃吸収試験の様子

安全性能へのこだわり

万が一の事故に起り得るリスクを考え、様々な安全性能試験を繰り返し実施しています。あらゆる試験データを蓄積し、日本だけでなく世界の安全基準をクリアするヘルメットを開発・製造しています。

各商品が安全・安心を
証明するさまざまな認証を
取得しています。



耐貫通性試験

円錐形のストライカーを落下させ耐貫通性を確認するための試験。



ロールオフ試験

転倒時などに脱げ落ちることがないよう保持性を確認するための試験。



顎紐引張試験

あご紐の脱落や伸長、バックルの破損の有無を確認する試験。

SAFETY & PRODUCT

安全性能は一番重要な
「当たり前」であること

セーフティーギアであるヘルメットは、
万が一の事故が起きた時初めて役割を果たします。
それはいつ、どんな状況で起こるのかわからないからこそ、
いつでも役割を果たせる安全性能が必要不可欠なのです。



製造・生産へのこだわり

製造から検品、出荷までを徹底管理

東大阪と中国の青島に工場を構え、しっかりと管理されたオペレーションのもとで、部品製造から組み立てまでを行っています。工程の流れの中で問題点を把握すればすぐに改善し、日々の品質向上に繋げています。

妥協しない安全・品質管理を実現

お客様の安全のため、厳しい品質点検に加え、完成品を抜き取っての性能試験の実施など、妥協のない厳しい自社安全基準を設けています。
高い安全性を保ちながら、安定した品質を実現しています。

STYLE

かぶるヘルメットから
着るヘルメットへ

ヘルメットは“万が一”に備えて
ふだんから着用するものだから。
進化するスタイル志向の市場ニーズに応え、
ひとりひとりの「好き」に出会える。
そんな想いで「デザイン」に向き合っています。

Commitment Kabutoのこだわり

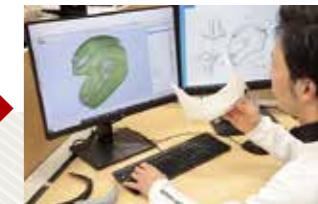


Point

最も重要な衝撃吸収試験は、暑い日や
寒い日、雨の日など様々な環境を想定
して繰り返し行います。
厳しい安全性能試験をクリアしてはじ
めて、安全・安心を証明できるのです。

機能とデザインへのこだわり

Point



まさに、デザインはデジタルの力と開発者の技術の、
英知の融合。それにより、独創的な機能美と様式美を
兼ね備えたヘルメットが誕生します。

定期的に企画会議が実施され、マーケ
ティングデータに基づいた様々な意見
交換が活発に行われます。

企画コンセプトをもとに自社デザイナー
の手でモックアップ(模型)を製作。造形
と機能の融合美を追求します。

手削りのモックアップで造形について
検討を繰り返し、3Dスキャナーでデジ
タルデータに変換します。

CFD(3次元数値流体解析)などのデ
ジタル技術を駆使してデータ検証。細
部まで調整します。

MARKETING RESEARCH

ユーザーの声にしっかりと耳を傾ける

子育てママやアスリート、販売店の店員からエンドユーザーまで。すべての部署・チームで徹底してユーザーの意見を直接聞くことを大切にしています。それらの集約された「声」がKabutoの開発を支えるノウハウとなります。

提携保育園やイベントでヒアリング

子育てママとの定期イベント

子育てママの意見を聞くため、座談会の開催やイベントに協力。赤ちゃんの快適性やかぶせやすさ、かぶせなくなるデザインなどもヒアリング。エンドユーザーのリアルな声がチャイルド用ヘルメットの原点となります。



提携保育園と協力した定期的な頭部の測定会

実際に測定すると子どもたちの頭は予想以上に個人差が大きいことが分かりました。その経験から、日々変化していく子どもの頭の大きさ、形を知ることが何より重要と考え、提携している保育園で継続的に頭部計測を行っています。

モニターや販売店からヒアリング

プロトタイプ段階でモニターの声を聞く

開発途中で、モニターの方に試作品を実際に体験してもらうことも。実際のかぶり心地や、かぶった時の見え方、色や形がユーザーの暮らしにマッチするかどうか。実際に商品を使う立場からの意見を大切にしています。



販売スタッフの皆様からもユーザーの声を聞く

販売スタッフの方々にもKabutoヘルメットを知っていただくため、定期的に店舗訪問や研修会なども行っています。その際にお客様からいただいた意見・要望もヒアリング。現場の声を集めながら、安全・安心なヘルメットづくりを行っています。

Commitment Kabutoのこだわり



Kabuto仕様のレーシングサービスカードレース会場へ駆けつけます。

レースのサポートでヒアリング

アスリートに寄り添う「レーシングサービス」

各地のオートバイレースや自転車競技の会場に出向き、Kabutoヘルメットを使用しているアスリートのサポートも行っています。ヘルメットのチェックやクリーニング、部品交換など、選手たちがレースに集中できるセッティングを行い、ポテンシャルを最大限に活かせる環境を整えています。

レースサポートからつながる商品開発

サポート契約選手のニーズは日々ヒアリング。さらに、レースで転倒したヘルメットは回収し、研究開発チームで検証しています。サポートを通じて得た様々なデータをもとに、極限状態に耐えうる性能と品質、世界に通用する最先端技術や最新素材を使った商品開発を行っています。

PUBLIC RELATIONS



ヘルメット着用文化の醸成もトップメーカーとしての務め

キッズからシニアまで、自転車利用者すべての命を守るヘルメットの着用文化を醸成すべく「カブト、かぶろ。」のスローガンをかけ、講演会や展示会など広報活動も行っています。ヘルメットの正しいかぶり方や選び方、安全基準についてなど、安全・安心な暮らしを送ってもらうための啓発活動にも注力しています。



行政との連携

ヘルメット着用の普及啓発と共に取り組むべく2016年、大阪府と協定を締結。府民の安全・安心の向上に貢献しています。



市民大会等での安全講演活動



交通安全指導員への講習



イベント協力等警察との協働



園児への「初めての2輪教室」の実施協力

他にも様々な活動を通して、地道な広報・啓発活動を継続しています。

Business Contents

すべての人に
安全で快適な
走りを

Motorcycle Helmets

オートバイ用ヘルメット P.13 >>

すべてのライダーが追い求める理想のために、Kabutoは
安全性と快適性を独自の先進技術で実現。研究と検証の
積み重ねで多様化するニーズに価値を提供します。



Sports & Daily bicycle Helmets

スポーツサイクル用
街乗り自転車用ヘルメット P.14 >>

お子様からお年寄りまで、気軽に便利な乗り物として、また
スポーツとして。自転車を安全で快適にするため、黎明期
から培ってきた技術と品質を提供します。



School Helmets

通学用ヘルメット P.15 >>

通学時の交通安全についてはまだ課題があります。
私たちは児童生徒の命を守るために、負担を減らす快適性と最新のスタイルを、未来のために届けます。



Motorcycle Helmets

オートバイ用ヘルメット

何よりもライダーのために。チャレンジャー精神で切り拓く。



レーシングヘルメット

MotoGP™をはじめ国内外の最高峰モーターサイクルレースでも使用されているコンペティション対応モデル。



フルフェイスヘルメット

培ってきたノウハウをもとに、軽さと高い通気性を実現。通話ガジェットなどにも対応、快適性も進化させているフルフェイス。



システムヘルメット

多様化するモーターサイクルライフ、ツーリングスタイルのニーズに応え、利便性と快適性を提供するシステムタイプ。



オープンフェイスヘルメット

心地よい風を感じる軽量なスタイルでなおかつ安全・安心を追求。使い勝手の良さと多様なニーズに応えるオープンフェイス。

Approach

ユーザビリティへの取り組み



エアロダイナミクス先駆者の誇り

業界のスタンダードとなっているエアロダイナミクスについて、Kabutoは早くから風洞実験設備を用いて研究を行っています。



常にライダーファーストであれ

過酷なレース現場におけるサポート活動を行うレーシングサービスチームを通じ、常に開発研究を行い、製品にフィードバックしています。



プロフィッティングサービス

個々に応じたきめ細かなフィッティングを行うため、研修を受けた国内認定店の専門スタッフによるフィッティングサービスを行っています。

Sports & Daily bicycle Helmets

スポーツサイクル用
街乗り自転車用ヘルメット



School Helmets

通学用ヘルメット



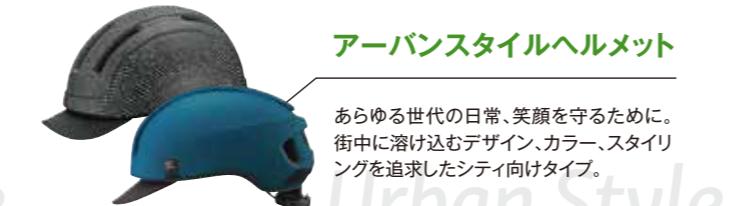
すべての人の安全なサイクルライフを、一生涯守っていくために。



Sports Style



Childmet



Schoolmet



インナーパッドは
簡単に取り外して
洗えるので、
いつでも清潔!



Back
左右後部3ヵ所の
反射ステッカーで
夜間の安心感が
アップ!

Approach / ユーザービリティへの取り組み



競技へのサポート

「日本自転車競技連盟」や「日本パラ陸上競技連盟」のオフィシャルスポンサーとして協力。
日本ナショナルチームも着用しています。



すべての人の安全・安心のために

「かぶる」から「着る」という発想からデザイン性に
こだわり、赤ちゃんから学生、シニア世代まで。
数多くの商品をラインナップしています。



企業へのアプローチ

従業員の自転車通勤や業務として自転車を使用
する企業、デリバリークルーの安全のために。
社会課題解決の一助となる提案を行っています。

Approach / 学校・生徒への取り組み

学校・生徒への取り組み

SG認証

国際的な製品安全基準をもとに、日本独自の厳しいテスト
をクリアした製品にのみ与えられるSG認証。Kabutoの
通学用ヘルメットはすべてSG基準認定品です。



トップメーカーとしての啓発活動。 そして、スクールヘルメットの高校導入実績No.1へ

学校や自治体へ「ヘルメットをかぶる文化」の醸成のための活動を行っています。条例により高校生のヘルメット着用義務化を進める4つの県で、Kabutoのヘルメットが推奨品に選ばれています。

学校、自治体への導入もしっかりサポート

全国の代理店、販売店と連携し、商品の提案から
販売までスムーズな導入をサポートしています。

※学校様・生徒様への直接販売は行っておりません。



Kabuto Teams

Kabutoの スペシャリスト

一人ひとりがプロフェッショナル
だからこそできる、
Teamカブトの総合力。

Kabutoヘルメットが皆さまの手に届くまでを支えるのは、各分野のスペシャリストたちです。
よりよい商品を作るために欠かさない日々の鍛錬。
自信を持ってお届けできる安心・安全な商品へのこだわり。
ヘルメットを通して明るい未来をつくりたいという想い。
一人ひとりの個の力が結集して、Teamカブトとしての総合力が生まれます。



購買部

海外の協力工場との連携などを
行っている購買部。
商品開発段階から本社開発部と
海外工場の間に入り、各部門と協
力しながら商品創造につなげてい
ます。また、安全基準をクリアした
高品質なヘルメットをたくさんの
ユーザーに届けられるよう、徹底
した品質管理も行なっています。

工場の方々とも一丸となってヘルメットを作
り上げ、お客様の手に届いた瞬間が何よりの
喜び。Kabutoヘルメットは、子どもから高齢者まで「人の人生をまるごと守る」商品です。
今後は、自信をもって勧められるKabutoヘ
ルメットを海外ユーザーにも提供し、もっと広
く世の中に届けていきたいです。

蔣 淳諒



開発部

マーケット調査からそれに基づく商品企画開発、造形デザイン設計(エクステリアデザイン)を行う開発部。
製造・物流・販売すべてが一体となってKabutoヘルメットを生み出
している中、開発～デザインの領域で造形・機能・快適性・安全性の
全てにこだわり、ユーザーにとってより良い価値を追求しています。

ヘルメットは毎日の日常の中で使うものだからこそ、
安全性はもちろん、利便性の高い商品作りを目指し
ています。まだまだヘルメットをかぶることに抵抗が
ある人が多いので、「これだったら被りたい」と思って
もらえる商品を開発していきたいです。そのためにも、
デザインに対してもっと広く携われるよう日々
勉強中です!

板谷 彩小里

ユーザーから「事故にあったけど助かった」と感
謝の言葉を頂いたときに、やりがいと使命を果
たさせた喜びを感じました。使う方の環境は多種
多様。時代・ニーズに合わせて、バイク・サイクル
を快適に楽しめて人の命をしっかり守れる商品
をこれからも世に出し続けたいと思っています。

濵谷 仁志



営業部

これまでの実績と社会課題を解決したい
という想いが、販売店やユーザーからの信
頼に繋がると思っています。ヘルメットと
いう「物」だけでなく、啓発活動や人の心を
動かす活動を通して、すべての人々の安
心と安全を支え、明るい未来を作りたいと
考えています。

山本 佳祐

営業部は代理店との連携を通じて
Kabutoヘルメットを多くの人に届け
る役割を担っています。
日々の活動の中で各企業だけでなく、
ユーザーニーズも直接聞きながら、商
品企画に反映。販売店や他企業とともに
ユーザーのために何ができるのか
を追求し、守ることに対する信頼をつ
くっています。



製造部

Kabutoの全商品の製造と検品を担う製造部。
さまざまな製品の組み立てを行ったり、完成した商品は傷・汚れ・部品不足がないかを点検したりしています。さらにはお客様が購入した後のアフターサポート
として修理も担当。まさにKabutoのブランド・品質・価値を守る要の部門とも
言えます。



History

オージーケーカブト の沿革

1982	・東大阪市高井田にてオージーケー販売株式会社を設立 ・一輪車プラホイールを製品化 ・小学校教育指導要綱への導入を目指す	1994	・初のスポーツアイウェア「QART」発売、国際メガネ展に参加 ・国際自転車展、大阪モーターサイクルショーに本格参加 ・東大阪市長田西にヘルメット工場を設立	2004	・アテネ五輪自転車トラック競技チームスプリント種目(長塚智広選手/伏見俊昭選手/井上昌己選手)で銀メダルを獲得	2012	・オートバイヘルメットに国内初のインナーサンシェードを搭載した「KAMUI」、軽さを追求した「AEROBLADE-3」を発売 ・ロンドン五輪自転車トラック競技で「エアロ-SL」を着用するサイモン・ヴァン・ウェルトホーヴェン選手(ニュージーランド)が銅メダルを獲得
1984	・サイクル競技用ヘルメットのサポート活動を開始 ・ロサンゼルス五輪自転車スプリント競技で坂本勉選手が銅メダルを獲得 ・自転車競技で日本人初のメダリストとなる	1995	・オートバイ雑誌の最高速チャレンジ企画に専用エアロコンセプトモデル「RG-X MAX」を試作使用	2005	・オートバイレース全日本選手権GP125クラスで菊池寛幸選手が年間チャンピオンに輝く	2013	・サイクルチーム最高峰カテゴリーとして三大ツールに参戦する、イタリアのチームランプレをサポート
1986	・道路交通法の改正でオートバイ運転時のヘルメット着用が義務化 ・本社を東大阪市御厨へ移転 ・世界選手権自転車競技大会個人スプリントで中野浩一氏が「CH-202」を着用し、10連覇を達成	1996	・アトランタ五輪自転車トラック競技でカーボンエアロヘルメットを着用した十文字貴信選手が銅メダルを獲得	2006	・社名を「株式会社オージーケーカブト」に変更 ・東大阪市長田西に本社を移行 ・物流センターを東大阪御厨から東大阪衣摺へ移行 ・オートバイ世界耐久選手権鈴鹿8時間耐久ロードレースで「FF-4」を着用する辻村 猛選手が優勝	2014	・オートバイヘルメットに日本初のECE/MFJ規格ダブル取得したモデル「RT-33」を発売
1990	・日本自転車競技連盟(JCF)がレース時のヘルメット着用を義務化 ・サイクルヘルメットにおけるJCF認定を国内初取得 ・トライアスロン選手にサイクルヘルメットのサポートを開始 ・オートバイヘルメットのベンチレーションに「負圧システム」の実用新案を取得	1997	・中国工場(山東省青島)でのヘルメット生産を開始	2007	・空力特許デバイス「ウェイクスタビライザー」を採用したオートバイヘルメット「FF-5」を発売 ・通気性と軽量性を両立したサイクルヘルメット「MOSTRO」を発売	2015	・愛媛県の県立高校生全員に通学用ヘルメットを供給
1991	・初の自社設計によるオートバイフルフェイスヘルメット「RS-1」を発売	1999	・サイクルヘルメット「リアクター」で初のインモールド製法を実現	2008	・道路交通法の改正で13歳未満のサイクルヘルメット着用努力義務化 ・チャイルドヘルメットシェアNo.1を確立する	2016	・リオデジャネイロ五輪自転車トラック競技においてカルム・スキナー選手(イギリス)が金/銀メダルを、アズール・アワン選手(マレーシア)が銅メダルを獲得
1992	・一輪車が小学校学習指導要綱3・4年体育選択授業科目に採用され国内シェアNo.1になる ・オートバイヘルメットの販売チャネルを用品プロショップへ本格展開開始 ・橋本聖子選手が夏季バルセロナ五輪自転車トラック競技に出場し、日本代表スペシャルエアロヘルメットを着用 ・トップベンチカバーを装着し「負圧システム」を採用したオートバイヘルメット「RS-1R」を発売	2000	・チャイルドサイクル用としてSG規格を取得したキャラクターヘルメットを開発 ・自社初のFRPシェルを用いたオートバイフルフェイスヘルメット「FF-3」を発売	2009	・自社風洞実験設備を設置 ・オープンフェイスタイプのオートバイヘルメット「AVAND」を発売 ・サイクルレースの最高峰「ツール・ド・フランス」参戦チームブイグテレコムをサポート	2019	・日本バラ陸上競技連盟とスポンサー契約、日本代表選手にサイクルヘルメットを供給
1992	・日本自転車競技連盟(JCF)にスポンサーとして正式契約 ・日本ナショナルチームに供給を開始	2002	・日本自転車競技連盟(JCF)にスポンサーとして正式契約 ・日本ナショナルチームに供給を開始	2010	・オートバイレース国内最高峰において「FF-5V」を着用する秋吉耕佑選手(JSB1000クラス)が年間チャンピオンを獲得(2011年と2年連続) ・経済産業省が推進する「キッズデザイン賞」において「チャイルドヘルメットシリーズ」が最優秀大臣賞を受賞	2020	・警視庁「交通功労者等表彰」において、特別優良団体として表彰
						2021	・東京五輪自転車競技。東京バラ陸上競技で、国内外の選手が金4個を含む計11個のメダルを獲得 ・サイクルヘルメット「CANVAS-URBAN」が日本インダストリアルデザイン協会(JIDA)のデザインミュージアムコレクションに選定



